

令和5年度

仙台自生サクラソウ保全育成事業 報告書

早坂徹¹・木村紗重子²

1 仙台市野草園 園長

2 仙台市野草園

概要:サクラソウはサクラソウ科に属する多年草である。サクラソウは宮城県が絶滅危惧植物をまとめた県レッドリスト 2021 に、絶滅危惧植物カテゴリーの中のCR+ENとして記載されている。野草園では栽培家から寄贈を受けたり、採集したりした宮城県を産地とするものを中心に野生種のサクラソウのコレクションがある。その貴重なコレクションの育成・保存と、絶滅危惧植物への理解や普及啓発を目的として平成 25 年度から「仙台自生サクラソウ保存育成事業」を開始した。現在では「仙台自生サクラソウ保全育成事業」として「コレクションを保存する」「展示会、栽培講習会、園内への植えつけ作業を実施して自然や絶滅危惧植物への普及啓発を行う」「自生地が現存する野生種の生育域外保全と野生復帰を行う」の3つの取り組みに分けて事業を行っている。

1. 令和5年度の事業内容

令和5年度の事業内容は普及啓発として「さくらそう展」、4月29日に「さくらそうの育て方講習会」1月18日に「さくらそう植替え実技講習会」「園内で苗の植えつけ会」を、自生地の保全と野生復帰として「圃場での苗の増殖」と5月28日に「自生地へ苗の植え戻し作業」を、品種保存のための「圃場での栽培管理」を実施した。また、今年は仙台で「第40回全国都市緑化仙台フェア」が開催されたためかサクラソウの出張ミニ展示を行った。

2. 普及啓発としての取り組み

(1) さくらそう展

さくらそう展は毎年開花時期に合わせて開催しており、今年度の会期は4月23日から5月7日の15日間で、展示期間中の来園者は3,957名だった。展示は人の手で栽培され発展してきた伝統園芸植物としてのサクラソウと、自然界では絶滅危惧植物となってる野生のサクラソウと一緒に展示することで、身近な暮らしにある植物を楽しむと同時にその元となった植物を知り自然への理解を深めても

らうことを目的としている。展示品は仙台さくらそう会と野草園でそれぞれ栽培している鉢植えを飾っている。また、観覧者の多い展示会で本事業の取り組み紹介のパネルも掲示し普及啓発のよい機会となっている。今年度の会期は4月23日から5月7日の15日間で展示期間中の来園者は3,957名だった(写真1, 2)。



写真 1: さくらそう展の様子



写真2: 事業紹介のパネル

(2) さくらそうの育て方講習会

この講習会は、毎年さくらそう展の会期中に開催している。展示を見て楽しむだけでなく、育てて楽しむことでサクラソウを通して植物に親しんでもらうことを目的としている。内容は講師による年間管理の説明と植替えと株分けの実演、現在も見ることができる自生地を紹介(公開している場所に限る)などである。今年も4月29日に1時間半の講習で開催し、24名(キャンセル4名)が参加した。参加者には自宅で楽しめるようにサクラソウ苗を配布し好評だった(写真3, 4)。



写真3: スライドを使用しての解説



写真4: 植替え作業の実演

(3) さくらそう植替え実技講習会

この講習会は、4月のサクラソウの育て方講習会が年間管理を中心に行うのに対して、植替えの適期が始まる11月に難しい「株分け」と「植替え」に内容を絞って実施している。今年度は11月18日に開催した(写真5, 6)。

講習会で教材とする苗は野草園で栽培管理している野生品種で、参加者に野草園のリピーターとなってもらえるように、植え替えてもらった品種を翌年の「さくらそう展」で展示している。また、自宅に持ち帰るポット苗も講習会でつくってもらい好評を得ている。今年の参加者は14名(キャンセル1名・満員お断り10件)で、より深く栽培を学びたいリピーターと、4月の講習会で苗をもらった新規栽培者や全くの初心者が半々の割合だった。



写真5: 直接丁寧な指導が受けられる

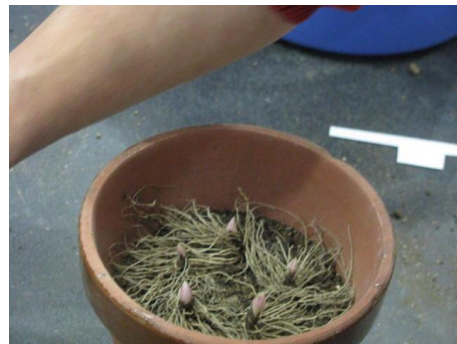


写真6: 植えつけの様子

(4) 園内での苗の植えつけ作業

この取り組みは、園内で自生地に模した環境をつくり野生種のサクラソウを咲かせることで、植物だけではなく環境が保たれることが、植物が保たれることにつながるということを知ってもらうために行っている。前年度から植栽場所を芝生広場の一角に

5. 「第40回全国都市緑化仙台フェア」でのミニ展示開催

国内最大級の花と緑の祭典「第40回全国都市緑化仙台フェア(愛称:未来の杜せんたい 2023 -Feel green! -)」が仙台で開催されることとなり、(公財)仙台市公園緑地協会の「花と緑の紹介展示」として、サクラソウの展示を5月9日から14日の6日間メイン会場仙臺緑彩館で行った。6日間の展示期間中、フェア全体の来場者数はのべ8,719名だった。

花が好きな客層が集まるイベントだったため、サクラソウの展示は好評であった。展示2日目にはサクラソウ苗を先着100名に配布した。また、本事業の紹介パネルも設置し普及啓発を行った(写真8, 9, 10)。



写真 8: サクラソウの展示と事業紹介パネル



写真 9: 用土や冬芽をレジンで保存したものも展示



写真 10: 展示について質問を受ける様子

6. まとめ

今年度も事業が掲げる内容を滞りなく行うことができたと思う。全国都市緑化フェアもあり、本事業と協会の紹介とPRができたことは良かったと思う。次年度も品種の保全、野生復帰の取り組みとともにサクラソウをとおして自然の大切さをつたえるため普及啓発に努めていきたい。